

6. 高齢者住宅の立地条件

高齢者住宅での暮らしやすさを大きく左右する環境・立地について運営事業者の立場、入居者及びその家族の立場から見てみると自立型も介護型も次の条件がベストに近いものだだと考えている。

【高齢者住宅立地条件】

- ① 交通便利な駅前立地（バス停から）徒歩5～6分（距離にして400～500m）家族や友人・知人が訪ねやすい。
入居者が出かけて行きやすい。従業員が通いやすい。
- ② 病院（検査・入院）・救急病院・クリニック（内科・外科・整形外科・眼科・皮膚科等）が近くにあり、かかりつけ医と連携がとりやすい。
- ③ 買い物に便利（スーパー・コンビニ等）
- ④ 食堂・レストラン・喫茶店・パン屋などが近くにある。
- ⑤ 緑が見え、公園が近くにあり、運動、散歩がしやすい。
- ⑥ 介護・看護等のスタッフが集めやすく、自転車・バイク等で通勤しやすいところ。
- ⑦ 様々な働き方ができる（夜勤・モーニングケア・ナイトケア等）パートスタッフの集めやすいところ。
- ⑧ アクティビティ（歌・ダンス・演奏・手芸・園芸等）や四季の行事、傾聴、セラピーなど提供、サポートするボランティアの集まりやすいところ。
- ⑨ 学校（小・中・高・大）幼稚園が近くにあり、交流の機会が多く持てる場所。
- ⑩ 周囲の環境が良く、高齢者住宅建設に理解のある土地柄。

以上、都市部と地方では条件が変わってくるが、限りなくそれらのものが揃ったところにあるのが、暮らしやすさという面では理想的と言えるのではないだろうか。

7. 高齢者住宅空間のあり方と設備要件

【居室空間の現状】

高齢者住宅の建物構成は介護型と自立型では多少異なるが、大きくはご自分の部屋になる居室と食堂・レストランや居間、お風呂、多目的ホール等からなる共用部とお世話するスタッフの事務スペースから構成されている。類型によって利用料によってその大きさ、空間はかなり変わってくる。お部屋は有料老人ホームでは13㎡から出来、お一人用では40㎡位まで、夫婦用になると50～100㎡位までである。介護型でみると平均18㎡になっているのが現状である。近年戸数を伸ばしているサービス付き高齢者向け住宅は居室25㎡の規定があるが、一定要件を満たせば18㎡でいいことになっているので、ほとんどの建物は18～20㎡で出来ている。暮らしやすさという点から見ると疑問符がつくが、土地の価格、建設費、利用料、需要者層から考えると致し方のないところかもしれない。

シルバー分譲マンションについては、これまでのファミリータイプと同じような作りだが、大きな違いは全館バリアフリー仕様で、共用部に大きなお風呂、食堂、多目的ホールなどがあり、シニアが生活しやすい仕様になっており、ひとり用30㎡～夫婦用100㎡までである。

暮らしやすさという面で、居室や共用空間等のハードのあり方は重要なウエイトを占めるが、利用者のおかれている様々な環境、利用料でその満足度は変わってくる。

【暮らしやすい共用空間の要件】

介護型、自立型問わずベストな所要空間として挙げてみると、

- ① 建物内にいる時間が長いことから、くつろぎや雑談ができる部屋かコーナーのある空間、新聞、本が読める畳コーナー、椅子、ベンチ、ソファのある空間
- ② 落ち着ける、癒される空間として写真や絵・置物があり、植栽や花壇等緑の見える空間、散歩コースに宗教色に関係のないお地蔵様や観音様のある空間
- ③ 入居者同士や家族、友人、知人と語り合える応接・談話室の空間

- ④手芸・書道・絵・茶道・華道・園芸・陶芸など趣味、同好会、倶楽部のできる空間
- ⑤昔を懐かしみ回想法等が出来る思い出コーナー、昔博物館の空間
- ⑥軽い運動・リハビリができる空間、トレーニングマシン、サイクルやジョーバ・ランニングマシン等の設置
- ⑦季節行事やカラオケ・園芸・コンサート・ゲーム等アクティビティが出来、運営懇談会や認知症予防教室にも使える多目的空間
- ⑧少人数で家族的な雰囲気の中で美味しく楽しく食事ができる空間
- ⑨健康相談・よろず相談ができるプライバシーに配慮された空間
- ⑩毎日身綺麗に過ごす為の洗濯室（自前かアウトソーシングかで空間は変わるが）

プライバシーや音に配慮され、くつろぎや人の刺激（学びや集い、会話等）があり、何より楽しみのある空間が望まれる。大きさ、広さは建設費、利用料に左右されるが、これらのものを何らかの形で部屋かコーナーで配置されると入居者の満足度が上がる空間になる。

【暮らしやすさを演出・サポートする主な共用設備&機器類】

- ①安心、安全を確保する入退室管理設備
- ②外部から汚れや菌を持ち込まない靴や車いす洗浄器の設置
- ③上履きに履き替える場合、抗菌・消臭・抗ウィルスの行き届いた下駄箱
- ④防犯カメラ、クレマー対策用カメラの設置
- ⑤うがい・手洗い消毒設備（風邪・ノロウィルス・O157 対策）の設置
- ⑥綺麗な空気、快適な温度・湿度が調整できる空調設備
- ⑦抗菌・抗ウィルス・消臭が施された壁材・床材・カーテンの使用、及び消臭器設置
- ⑧介護型については食事用適温配膳車の設置
- ⑨あらゆる身体状況に対応できるお風呂設備（一般浴・個浴・座位浴・臥位浴・シャワー・冷たくない床材、滑らない床材・冬場のヒーター・夏場の扇風機等）
- ⑩居間・食堂・お風呂上り場等の床暖房システム
- ⑪たばこ消臭器のついた禁煙ルーム
- ⑫カラオケ・健康体操・TV ゲーム等のカラオケ機器や音響装置、プロジェクター等のアクティビティ補助設備
- ⑬介護予防やリハビリ、健康維持のためのジョーバ、ランニング・歩行マシン及び平行棒、階段等の設備設置
- ⑭癒しやコミュニケーションのできるロボットの設置
- ⑮自宅と変わらない一般家電（テレビ・ラジオ・レコーダー・冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器・パン焼き器等）
- ⑯情報収集やコミュニケーションの為のパソコン環境

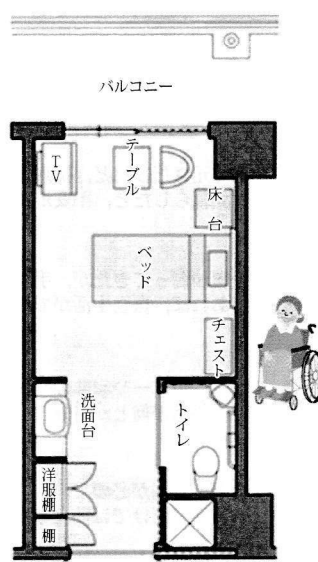
以上、暮らしやすさをサポートする設備が整っているかどうかチェックポイントになる。

【高齢者住宅の居室内設備と機器類】

居室内の設備は自立型と介護型でかなり変わってくる。自立型に必須の設備は緊急の連絡や相談ができる通話機や、居室内で身体に異常があって動けない状態が長く続くと検知し知らせる生活リズムセンサー等の設備が必要要件となってくる。介護型は先の設備に加えて図7のように入居者の状態、状況によって様々な設備がつく。これも運営者の考え方、利用料によってどこまでその設備がつくかということになってくる。従って、自分の状況にあった設備が的確についていれば、安心安全で暮らしやすいということになってくる。

【居室の設備機器類】

- ベッド離床センサー
- 睡眠センサー
- 起き上がり・心拍・体動センサー
- ベッド昇降スイッチ
- ナースコール
- 緊急呼び出し
- (握りボタン式)(引きひも式)
- (リストウオッチ式)
- (ペンダント式)
- ケアホーン式(会話)
- トイレセンサー(異常検知)
- トイレリモコン
- トイレ照明センサー
- 照明スイッチ(リモコンスイッチ)
- 空調リモコンスイッチ
- テレビリモコンスイッチ
- ケアモニター(異常検知赤外線カメラ)
- 生活リズムセンサー(主として自立型)
- オモツセンサー
- 窓開閉センサー
- 空気入れ替えセンサー
- 煙センサー・熱感センサー



【居室内設備】

- テレビ
- 空調機
- 照明器具
- 洗浄装置付きトイレ
- 洗面台(鏡付き)
- ベッド(電動式)
- チェスト(収納)
- キッチン
- 電磁調理器
- トイレ換気扇
- スプリンクラー
- スピーカー
- 除菌・殺菌・消臭等の機器
- (マイナスイオン発生器)

【居室外設備】

- 在室表示ランプ
- 異常通報ランプ
- 電力計

※これまでにしている設備関連ですが事業者によって、利用価格によって設置は異なります

図7 高齢者住宅の居室・設備(介護型事例)

【機器や設備設置の考え方】

高齢になると様々な体の変化が起こってくる。背が曲がり、目線が下がり、物も少し見えにくくなってくるので、設備機器も目線や見え方に工夫をしなければいけない。それからお世話するスタッフが様々な場面で扱いやすい、サポートしやすい設備機器を工夫しなければいけない。高齢者目線、車いす目線で設備を考えることが快適な暮らしやすさに繋がってくる。

気をつけたい目線・高さは窓・扉・花壇・椅子・テーブル・手すり・机・鏡・洗面台・キッチン・浴槽・シャワー・各種スイッチの設置(照明入り切り・空調操作・エレベーター操作・非常等)・受付・掲示板・写真・絵・展示の各取り付け高さやベランダ柵壁の目隠し(透明か不透明)等が挙げられるので、そういう設計、施工になっているかどうか、配慮された機器類が設置されているかどうかチェックポイントである。

【見守りとしての空間のあり方】

設備の配置と同時に各所要室の空間のあり方は、一つに入居者から見て頼みやすい空間、距離感に！二つ目にスタッフから見て気づきやすい空間か距離感に！三つ目に家族や友人、知人、様々な来館者から見ても居心地が良く生活感のある空間に！四つ目にお世話するスタッフのモチベーションがあがる空間に！になっているかどうかである。これも大事なチェックポイントである。

8. 高齢者住宅での必要要件

高齢者住宅での暮らしやすい住まいを選ぶ上での考え方、見方について様々な角度から記述してみる。

【高齢期の住み替えステージ】

高齢者住宅に住み替えを考えた時、人それぞれ身体状況や家族環境、家屋の環境、周辺環境、更に資産状況等様々な事情がある。図8で表してみると入居タイミング別に住まいに欠かせないことが見えてくるので、その折々の暮らしやすさの要件は変わってくることになる。

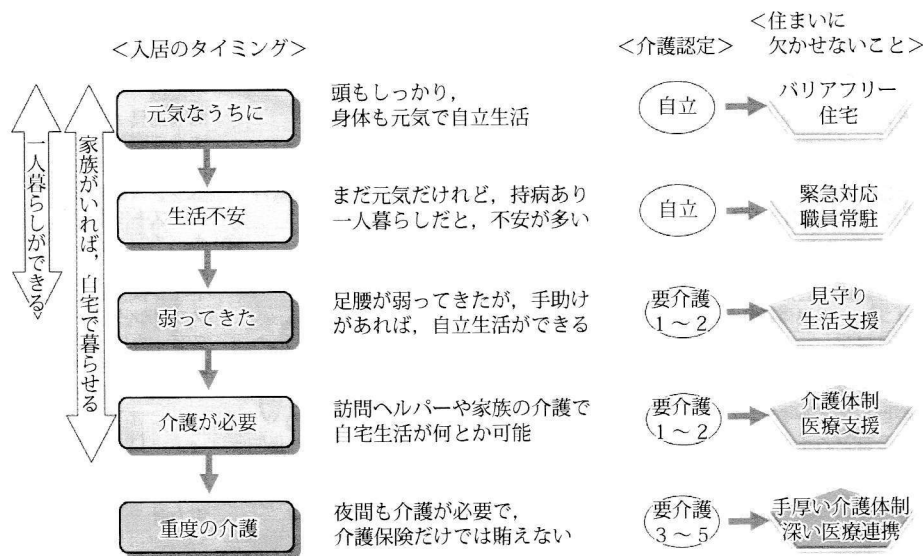


図8 高齢期の住み替えのタイミング

【住み替えのきっかけ】

先のステージごとの状況から住み替えのきっかけは、現状の入居状況からみると自立入居の場合で、①1人暮らしで病気が不安、②老後の人生を安心して暮らしたい、③独身で将来介護する人が居ない、④子供の世話になりたくない、⑤将来の介護に備えて環境を整えたい一方、介護入居の場合で、①認知症で介護が困難、②転倒、骨折で車いす生活、③脳梗塞等で半身まひ、④独身、1人暮らしで介護する人が居ない、⑤高齢で家事が出来ない等々になっている。

【高齢期で暮らす上で不便、面倒なことは】

高齢者住宅住み替えに当たって、身の回りを振り返ってどんなことが不便になっていくのか、面倒になっていくのか、それらが解決できるのかどうかという視点で見てみることも必要である。列記してみると、

- | | | |
|------------------|-------------|---------------|
| ・ 日常の調理 | ・ ふとん干し | ・ セールスの対応 |
| ・ キッチンの後片付け、食器洗い | ・ アイロンかけ | ・ 相談相手 |
| ・ 買い物 | ・ 庭の手入れ | ・ 宅配便、郵便の受け取り |
| ・ 部屋の掃除 | ・ ゴミだし | ・ 行政手続き |
| ・ お風呂の掃除 | ・ ごみ当番 | ・ 病気の時 |
| ・ トイレの掃除 | ・ 季節替え（衣替え） | ・ 体調急変の時 |
| ・ 洗濯 | ・ 町内会の役 | |

等々が、不便なこと、面倒なこととして挙げられる。このことを解消してくれるのが高齢者住宅の特徴になってくる。

【高齢者住宅での生活像を考える】

終の棲家へ入居という中で、人それぞれ高齢者住宅での生活像は異なってくるが、まず最初に検討したいのはどんなところで住みたいか！介護と自立では多少異なるが、共通して言えることは地域、土地柄、環境は？建物の規模、開設年数は？そして、そこでどんな暮らしをしたいか！自由に、楽しく、安心に、自分らしく！ということになると思う。自立の場合は自ら自分の将来を見直し、夫婦の場合は十分に意見調整もして検討する。介護の場合、家族、兄弟、関係者等とよく話し合っ検討することが大事になってくる。

【高齢者住宅の暮らしに何が必要か】

高齢者住宅で思い描く暮らしには何が必要か、検討項目としては、

- ・環境の良さ
- ・医療関係の対応度
- ・生活支援体制
- ・交通の便利さ
- ・介護の手厚さ
- ・セキュリティ
- ・買い物の便利さ
- ・お部屋の広さ
- ・経営、運営会社の健全性
- ・食事の美味しさ

等々が挙げられ、自分にとって何が大切かで、暮らしやすさはそれぞれ変わってくる。

【自立型高齢者住宅、入居先の必要要件】

入居先に備わっていてほしい必要要件は、

- ①建物内の出入り等、今まで通りの自由があること。
- ②保守・メンテナンス等の時に建物内に頼れる人がいること。
- ③精神的なことも含めて生活相談できる人がいること。
- ④看護師や専門家がいて健康相談ができること。
- ⑤認知症予防や介護相談が出来ること。
- ⑥様々な病気や持病、服薬管理など医療相談ができること。
- ⑦同世代の人と仲良くおつきあいができること。
- ⑧余暇活動を支援してくれること。
- ⑨食堂・レストラン・大浴場・多目的ホール等があること。
- ⑩駅前立地でお店、レストラン、スーパーが身近にあること。

以上が暮らしやすさの条件の大半を占めるのではないだろうか。更にそこで生き活きと暮らす為の条件について考えてみる。

【高齢者住宅で生き活きと暮らす為の条件】

生き活きと暮らす為の条件を見的过程中で WHO（世界保健機構）が推奨する健康の三要素（運動・栄養・休養）が揃っているかどうかという視点で見てみるのも一つである。運動ができる環境、設備が整っているかどうか。栄養については管理栄養士がいてカロリー計算など配慮した食事管理をしてくれるか。休養については近隣情報や趣味の会、各種クラブ、季節の行事等企画、サポートしてくれるかどうか大きなポイントである。改めて生き活き暮らす為の条件を整理してみる。

- ①毎日のお元気確認を何らかの形でしてくれる（目視・電話・生活リズムセンサー等）。
- ②部屋での生活、食事の摂取、時間、外出等自由度がある。
- ③コンシェルジュスタッフ等との良い関わりができる。
- ④食事の美味しさがあり、バラエティさがある。
- ⑤身体状況にあった様々な種類のお風呂設備がある。
- ⑥交通や買い物の便利さ、環境の良さがある。
- ⑦医療・介護の連携ができています。
- ⑧介護予防を考えた設備や介護予防教室がある。
- ⑨趣味等が生かせる環境がある。
- ⑩住民の文化度があっており、仲間作りのサポートがある。

等々、頭も身体も動かせる、刺激のある環境になっているか、言い換えれば認知症にならない為の要素が入っているかということになる。

9. 高齢者住宅選びのポイント

高齢期になって“終の棲家”として高齢者住宅を選ぶ上で、人それぞれの事情は異なってくるが、暮らしやすさを見つけ出すポイントを考えてみよう。

【高齢者住宅を選ぶ上でのポイント】

- ①地震・火災・セキュリティ等の防災関連で安心の住まいになっているか。
- ②建物内にあっては一番大事なお部屋・食堂・お風呂の設備・環境どうか、建物外、周辺に至っては買い物・食事等のお店・病院のある環境か。
- ③高齢者のことを考えた栄養管理された食事の提供ができるか、バラエティさなどバランスの良い食事になっているか。喫食の自由度はどうか。
- ④入居者の文化度があい、各種相談事や緊急時、医療・介護連携等サポート体制は万全か。
- ⑤情報の入手、行事、同好会や趣味、運動など刺激のある生活が望めるか、そのサポート体制、設備環境はあるか。そして先ほどの健康の三要素が備わっているか、それが使える環境にあるかが、選び方のポイントになってくると考える。

【自立型高齢者住宅入居のメリット】

自宅と違って高齢者住宅で暮らすメリットとは何かを考えてみよう。

- ①住み慣れた自宅から離れ、高齢者住宅に入居することで新たな縁の構築（知縁・助縁・遊縁・地縁）が生まれ、刺激のある生活で生き活きと暮らせる。
- ②身体の衰えを軽減・サポートする設備、環境（お風呂・食事・バリアフリー仕様等）が使えることで安心・安全に暮らせる。
- ③入居者をサポートする体制が整って、何かあれば直ぐに対処できる環境で家族、子供たちの心配が軽減される。
- ④将来、介護、医療が必要になっても連携体制で安心がある。
- ⑤快適・安心・安全・大丈夫・楽しみ・楽が揃って、その設備、環境を使うことによって入居時の状態を維持できる可能性がある。

【介護型高齢者住宅入居のメリット】

- ①介護スタッフがサービス提供をしてくれることで家族の身体的、精神的負担が軽くなる。
- ②ホーム内で様々な人との触れ合いがあり、刺激のある生活が望める。
- ③日常生活サービスやアクティビティの提供等でメリハリのきいた生活が出来る。
- ④栄養管理された食事提供、健康管理で快適安心な生活が送れる。
- ⑤専門の介護スタッフがサービス提供することから認知症の方の安定化が期待できる。

これらのメリットを考え、それらが整った高齢者住宅に入居すると、暮らしやすさから不安が消えて気持ちが元気に、そしてポジティブに生活できることになる。

10. 暮らしやすい高齢者住宅に向けて

自立型入居は入居者自身の気持ちの持ち方、過ごし方ひとつで快適な暮らしやすさが実現可能だが、介護型になると身体状況や認知症の状況などで、人の手に委ねなければ、なかなか暮らしやすさという点では難しい。人口動態を見ると益々高齢者は増え、それに従って要介護者も増加、その中で認知症も増えていくことが予想されている。一方でお世話するスタッフの確保が難しく、それらを補う機器なりシステムが必要になってくる。

身体状況の困難な方や特に認知症の方が安心して暮らせる高齢者住宅にするために、リーズナブルで使いやすい（入居者もスタッフも）様々な機器やシステムの開発がより一層望まれる。

【介護型高齢者住宅に欲しい商品・システム】

高齢者住宅の運営経験や施設訪問の経験から、私なりにこんな商品やシステムがあれば暮らしやすさをサポートすることが出来るのではないかと考え列記してみる。

- ・ノロウィルスを水際で防ぐセンサーシステム

玄関口・調理場出入り口・職員出入口でウィルスを検知、侵入を通報、警告するもの

- ・居室の入居者異常発見通報システム

赤外線カメラや高感度センサー等を利用、プライバシーを尊重して顔の表情、体温の変化、失禁、転倒、問題行動等を把握、通報、駆けつけるもの

- ・体内時計リズムを改善するシステム

室内の一部に外の光を再現する蛍光灯はあるがLED等を利用して太陽の明りを室内で再現するもの

- ・全館に季節の写真、動画等を使って季節感を演出するシステム

テレビモニター等を使って四季を演出、又、芸術品の鑑賞をするもの

- ・個々の居室内の温度、湿度を調整するシステム

入居者個々の身体の特性を入力、その方にあった快適環境を都度提供するもの

- ・生活リハビリ支援システム

身体状況（手足の力、筋肉の状況、）認知状況、介護度から、その人に合ったりハビリプログラムを提供するもの（一日何歩、サイクルマシン何回、脳トレ等）

- ・抗菌・抗ウィルスで臭いを発生させないシステム

介護居室の床・壁・天井等の内装材及びカーテン

同上の空間環境良化装置

- ・抗菌・消臭・抗ウィルスで肌触り、着触りの良い寝具類の開発

デザイン性、防汚性、呼吸性に優れた（布団、枕、シーツ、下着、パジャマ）もの

- ・認知症早期発見システム

顔の表情、身体の動き、歩き方を捉えて診断、処方するもの

- ・認知症予防の為に血管改善サプリメントの開発

血管障害から認知症を防ぐもの

- ・高齢者向け、楽しみながら筋力維持回復ができるゲーム・リハビリ機器の開発

女性筋力トレーニング“カーブス”版の超高齢者向けのもの

手足の可動域を広げ、脳を刺激する楽しみのある高齢者向けゲーム

- ・光・音・映像・写真・絵等を駆使したリラクゼーションシステム

高齢者のうつ症状やメンタル不調面を改善し癒し効果を高めるもの

以上の中で、市場にはそれに近いものが出ている商品、システムがあるが、より一層、入居者を快適・安心・安全にサポートするシステムの開発、進化が望まれる。

【介護ロボット】

介護の担い手の人材不足や限られた人材の有効活用の為に、経済産業省と厚生労働省において、開発支援する分野（起き上がり補助・体位交換補助・歩行補助・排泄補助・徘徊補助・入浴補助・展王検知補助）を特定して進めている。かなりのものが開発されてきているが、より優しい、より使いやすい様に技術革新が求められると同時に、誰もが介護保険で使えるようになっていくことが望まれる。

ここでは高齢者住宅での要介護者や認知症の方の暮らしやすさに向けて、どんなコミュニケーションロボットがこれから必要か考えてみる。

今後の展開は次の4つの分野で進んでいくと考える。

- ・自立支援用

ロボットのコミュニケーションを通じて、安定した生活リズムの維持やQOL（生活の質）の向上によって、自立生活を維持することが期待できる。

- ・介護予防用

認知症予防効果が期待され、見守りサービスによる緊急対応時や会話による口腔機能の向上、うつ病予防などが期待され、注目度が高い。

- ・リハビリ用

レクリエーション機能をシステム変更したり、アプリケーション（ソフト）を追加することで会話を通じた介護予防をするだけでなく、リハビリ体操のアプリケーション（ソフト）をインストールすることで、リハビリ領域での展開が可能となる。

- ・介護用

認知症による徘徊、暴言や言語障害、摂食障害、うつ病、引きこもりなどが既に現れている高齢者に対して、癒し効果があるという事例が多くある。

又その様な高齢者の症状が緩和することで、介護従事者の負担が軽減される。

【高齢者住宅向けに欲しい介護ロボット】

- ・エレベーター内や玄関出入口等で徘徊者の名前を呼びかける「徘徊検知声掛けロボット」
- ・徘徊に同行する「徘徊付き添いロボット」
- ・スタッフに変わって夜間や手薄な時間に「見回り、見守りを行うロボット」
- ・趣味の会、倶楽部、同好会等をサポートする「アクティビティサポートロボット」
- ・クリニック付き添い及び「待ち時間サポートロボット」
- ・飲み忘れ注意や服薬を管理する「服薬サポートロボット」
- ・起床、入眠等「生活のメリハリをサポートするロボット」
- ・大声や暴力等「不穏な人をサポートするロボット」

更に個別対応としての機能、

- ・読みたい本を聞かせてくれる
- ・読みたい新聞を見せてくれる、読んでくれる
- ・昔、旅行したところや思い出の地を写真や映像（TVと連動）で見れる
- ・故郷の景色やお墓がネットワークを通じてテレビで見れる
- ・自分の好きなファンがテレビに出ていたら探索、連動して声掛けしてくれる
- ・健康体操など声掛け、背中押しをしてくれる
- ・栄養不足、偏りを指摘、背中押し、アドバイスをしてくれる
- ・話し相手になってくれる
- ・一緒にゲームができる
- ・添い寝ができる 等々

いずれも入居者一人ひとりを認識し、その場面、場面に応じて、個別対応ができることが重要だと考える。そのためにはプライバシーの問題があるが、その方の生活歴やキャリア、更に習慣やくせ、趣味趣向、行動パターン等も把握し、ロボットにインプットし、タイミングよくサポート出来ることが望まれる。更に暮らし不安の方や認知症の方が安心して穏やかに暮らせるためのコミュニケーションロボットが必要だと考えるので、開発の参考にして頂きたい。

11. 暮らしやすい住まいの考え方 まとめ

高齢期の住まい、高齢者住宅について様々な角度から見てきたが、暮らしやすさという面で追及していくと、入居者の思い描く住まい方、暮らし方だけではないことが分かる。形態的には共同住宅という形になり、そこに他の入居者が

住まい、自立・介護を問わず何らかの形でサポートを受けなければならなくなるので、ある意味では生活支援スタッフ等と一緒に暮らす共同生活ということになり、事業者ごとに定めるルール、規律を守り、暮らしやすさを求めているかなければならない。そうした環境の中で介護・自立によって違うが、その人なりに元気で生き活きと自立した生活をしていく気持ち、行動を持つことが暮らしやすい“終の棲家”での過ごし方になってくると思う。そこに事業者は頂く費用によって、ハード・ソフト・サービスを最大限に追求し、限りなく「快適・安心・安全・大丈夫・楽しみ・楽」を提供していかなければならない。時代によって人の過ごし方、暮らし方トレンドは少しずつ変わってくる。又お世話するスタッフ環境も変わってくるので、高齢者住宅を提供する事業者は停滞することなく“顧客満足度向上”を目指して“暮らしやすさ”を追及していった欲しいものである。更にこの業界に関る方は、先に記述した様に、常に高齢者の立場に立ち、業界の流れを見、現場を知って、暮らしやすさを追求する商品やシステム開発を行っていった欲しいものである。